

新庁舎・(仮称) 新福社会館建設 事業市民説明会 (6回目)	日時	令和5年11月4日(土) 19:00~21:30	場所	中町桜並集会所 集会室A B
説明者	白井市長、高橋庁舎建設等担当部長、前島庁舎建設等担当課長、笹栗福社会館建設等担当課長、田中公共施設マネジメント推進担当課長、富田企画政策課長			
事務局	企画政策課 福井主査、奥主査、斉藤主任 (受託者) 株式会社佐藤総合計画			
参加者数	38人(うち市議会議員8人)			
次第	1 開会 2 市長挨拶 3 新庁舎・(仮称) 新福社会館建設事業について 4 質疑応答 5 閉会			
(進行: 企画政策課主査)				
<p>1 開会</p> <p>2 市長挨拶</p> <p>3 新庁舎・(仮称) 新福社会館建設事業について (1)これまでの経過、(4)検証結果に基づく設計見直し、(5)再開方針案について、前島庁舎建設等担当課長が説明を行い、(2)現設計、(3)現設計の検証結果について、株式会社佐藤総合計画が説明を行った。</p> <p>4 質疑応答 (市民A) 小金井市は2050年までにゼロエミッションを目指している。新しい庁舎はゼロエミッションになっているのか。 (庁舎建設等担当課長) →エネルギー消費量40%削減のZebOrientedを目指している。「Zeb」を目指すのは規模も10,000㎡あり難しい。運営して行く中で更なる削減が可能か検討していく。</p> <p>(市民B) 見直し案という案はだいぶ安くなると聞く。市庁舎建設のコストを下げると市内の他の施設の改修をするというのは考えていないのか。また、見直し案は検討しないのか。 (市長) →市内には、老朽化して改修や建て替えなど対策が必要な施設が多数ある。その状況に対して、現在は、公共施設マネジメントにより、市内の公共施設全体の計画に基づき、各施設への具体的な取り組みを行っている。 今日の説明会は、2年間、実施設計を中断していたので、実施設計を再開するという経過の説明会である。基本設計は、事業主の考えを図面にして、理解を得るために作成する。実施設計は、基本設計から、施工者に伝える図面を作成し、積算をする段階で、ほぼ完了していた段階でコロナ等もありストップしていた。配置計画や構造については議論を重ねて、議会の承認も得てきているので、この段階で反映させるのは難しい。 コストに関しては、見直し案のコストは概算値で、実施設計が完了して積算をした工事費とは熟度が違うため、比較はできない。</p> <p>(市民C) 周辺には園庭のない保育園がある。秋には保育園の運動会も開かれる。広場を広く取る見直し案を検討して欲しい。 (庁舎建設等担当課長) →現設計は、基本設計を始める前に、参加資格のある設計者がプロポーザルで提案したものを設計者選考委</p>				

員会にて選考を行い、決まったものである。公募型のプロポーザルの条件に外れている見直し案に対して、公平性の観点から、市として比較検討をすることはできない。

(市民D)

歩行者が敷地に入ってから、新庁舎玄関まで何を指して進んで行けばよいのか分からない。高架下から入るとピロティがあるが、建物の外側をぐるっと回って建物に入らなければならない。さくら広場側から入っても舗装されたひろばを歩いて行くようになる。

(佐藤総合計画)

→西側の通りから入るのがメインの動線と考えている。中央に入口があるが、距離がある。建物西側にも出入口を設けているので、実際は西出入口から入ることが多くなると思われる。

(市民E)

なぜ南側に広場を作らないのか。庁舎と福祉会館の構造がなぜ違うのか。

(庁舎建設等担当課長)

→プロポーザルの前のH29年、H30年の建設計画調査で、施設配置は決まっている。その段階で、一直線の形も含めて建物配置を検討した上でL字型が敷地を効率的に使えると判断し決めている。それを踏まえて、基本設計を行い、施工者に伝える図面を作成する実施設計を行い、ほぼ終わった段階であった。財政的な懸念がありストップしていたが、今回は再開をすることの説明会であり、大きな変更は難しい。

(市民F)

高架下は利用しないのか。

(庁舎建設等担当部長)

→高架下はJRの土地であり、利用についてJRと協議している。庁舎敷地の北側の一部分は、工事中に通路として使わせてもらうことになっている。庁舎完成後も引き続き使えるよう、引き続き協議をしていく。

(市民G)

最初の計画では、現在利用を開始している計画であったと思う。さまざまな市民参画を行い決定してきた現設計で1日も早く市庁舎を建設して欲しい。福祉会館の使い方について、途中まで協議されていたと思うが、今後、どのように協議を再開させようと考えているか教えて欲しい。

(庁舎建設等担当部長)

→運用面はまだ決まっていないものが多い。例えば、臨時駐車場にキッチンカーを置いて運用ができないか、さくらひろばの使い方、市役所の前でイベントができないかなど、アイデアはあるが決まっていない。オープンに向けて検討が必要。運用面の検討のためにも、現設計で速やかに進めていきたい。

(市民H)

広場が広いと良いが、駐車場と広場のせめぎ合いだと思う。駐車場台数の設定について教えて欲しい。かつての使われ方から決めた台数なのか、電子化が進みコンビニ交付も普及してきたことを考慮した台数なのか、ココバスのルート変更などを考慮した台数なのか考えを教えて欲しい。

(企画政策課主査)

→H29年 建設計画調査 126台(公用車48台+付置義務台数58台+利便性向上目的20台)と設定。

R1年 基本設計 124台(本庁舎駐車場の利用状況なども踏まえて算出)

としていたが、基本設計後のパブリックコメントで広場を増やす要望が多かったため15台減らし、

R3年 実施設計 109台(公用車41台(地下)+地上45台+臨時23台)とした。

(市民I)

敷地の向かいにあるマンションは、駐車場が空いている。近隣駐車場を活用して、敷地内の駐車台数を減らすことができる余地があるのか伺いたい。

(市長)

→基本的には敷地内で駐車場を確保する考えであるが、運用の中で、駐車場が足りない場合も考えられるので、その際には相談させて頂きたい。

(市民J)

駐車場は 109 台も必要か。(向かいのマンションは6割程度しか埋まっていない。車を持たない人が増えている。) 需要が少ないのであれば、駐車台数を減らしてもよいのではないか。

(庁舎建設等担当部長)

→運用を始めてみないと多い少ないは分からないが、福祉会館利用者を考慮するとかなり厳しいと懸念している。第二庁舎では、期日前投票の時には渋滞が起きている。実際に運用を開始してから検討したい。

(市民K)

福祉会館が完成すると、多世代が交流できる施設になると良いと思うが、そこに意識が及んでいない方も多い。完成前から、使い方を検討ができるようにするのか教えて欲しい。

(市長)

→建物を建設するかどうかの議論が中心で、実施設計に入ってからソフト面については協議できていない。できる前から、いかに人を巻き込んでいくかが大事で、ご意見を汲んでいきたいと思っている。

(市民L)

近隣マンションの車寄せの前に横断歩道と信号が建てられて、不便に感じている。そのことにより、敷地内を部外者が通り抜けする問題が起きているが、庁舎ができたなら、通り抜けが増えることを心配している。高架下の南側のT字路に信号を設けて、マンションの車寄せ前の信号は廃止をして欲しい。

(庁舎建設等担当課長)

→信号機は警察の所管であり、警察の安全の考え次第だが、分かればお知らせする。通り抜けの話は理事会の方から話は伺っている。理事会の方に言ってもらえれば、市にも連絡があることになっている。

(庁舎建設等担当部長)

→担当部署には改めて、お話を共有しておく。

(市民M)

15 年前から建替計画や、第二庁舎の賃借料の問題があった。これまでの経過は分かったので、今後は早く建設して欲しい。

公共交通について、崖線下の地域からのアクセスを良くする方向に進んでいるかどうか。また、崖線下に市役所の出張所を作って欲しい。

(市長)

→交通アクセスについて具体的な検討はできていないが、課題があることは理解している。崖線下に出張所を造る計画はないが、DX 推進や公共施設全体の機能の在り方を整理する中で検討していきたい。

(市民N)

見直し案は条件変更だと言うが、市も条件を変更しているので(①清掃関連施設が建ったまま建設する②福祉会館を先行竣工させる)、見直し案がダメというなら、市長案も一から見直すべきということになる。

見直し案は、

- ・さくらひろばから庁舎に行く時に車路を渡るのが危ない。
- ・全て免震構造とするべき。

・地下駐車場をやめれば、もっと安く建設することができる。

との思いからプランを行った。

見直し案を議員時代の市長に話した時は乗り気だった。スケジュールについても設計変更は十分可能だと考える。

(市長)

→我々の案は市長案ではなく、市民と一緒に作ってきた市民案である。市では、設計条件の変更はしていない。清掃施設が建ったままという条件は変更せずに設計を行っている。単に時間が経過して、清掃関連施設の移転が先になっただけである。また、状況が変わり、先行竣工する意義は無いと判断した。

議員時代も議会では現案を認める立場を取り続けていた。現設計は民主主義のプロセスを経た成果。基本構想、基本計画、建設計画調査、プロポーザル、設計者選考委員会、基本設計、市民ワークショップ等の手順を踏み、その都度、議会の承認を受けながら民主主義の手続きを経てきている。実施設計再開にあたり、議会の議決も経ている。

また、現設計は、庁舎の基本計画、福祉会館の基本計画に基づいて、小金井市を進展させるためのコンセプトを作って、福祉・協働・交流のまちづくりを実現するための設計だと思っている。

今から見直し案を検討するとなると、条件設定から遡ってやり直す必要があり、設計をスタートするまでに、膨大な時間がかかる。さらに、庁舎ができないために市政が停滞している。抜本的な組織改革も行っていない。より良い市民サービスを提供したいができない状況が続いている。本庁舎はトイレの天井が落ちている状況で、もし、庁舎建設が更に時間がかかるのであれば、改修の手を加える必要がある。第二庁舎のリース費の問題も解決しない。

今、設計をやり直す段階ではない。

(市民O)

ひろばスペースとさくらひろばを合わせて840㎡か。今の暫定広場(7,000㎡)と比べて狭い。

東北大震災では、家具や備品が落ちたりした。福祉会館は弱者が集まるところで、障害のある人への合理的配慮の義務化したので、免震構造にするべき。

(佐藤総合計画)

→さくらひろばだけで840㎡あり、現在の本庁舎の前の駐車場くらいの広さがある。条例によって、大きな敷地の開発をするときには、道路に面した位置に広場を設ける必要があり、道路に面してさくらひろばを設けている。

庁舎側のひろばスペースはキッチンカー等も置ける荷重設定としている。繁忙期は、駐車場として利用できるように荷重設定をしている。繁忙期以外は、イベント利用なども可能である。

免震構造について、ほとんどの公共施設は耐震構造で、巨大地震時には安全確保後、外に避難してもらう考えになっている。巨大地震が来たときには、1か月ほど余震がある。市民が避難生活をしている間に、福祉会館は、通常の市民サービスを一度ストップすると考えられる。一方、庁舎は、災害対策本部があり、機能をストップできないので、免震構造としていると理解している。

(市民P)

地下駐車場は職員の通勤用の駐車場か。

(庁舎建設等担当部長)

→公用車用の駐車場で、業務で使用する自動車を停める。

(市民Q)

見直し案に賛成。現設計は広場と車の出入口が近いので危険だと思う。ココバスも敷地内を通るとなるとさらに危険だと思う。広場と駐車場を分けた方が安全だと思う。

(市長)

→危険性解消の方法は検討する。なお、ココバスは敷地内に入るルートとはなっていない。

5 閉会

— 以上で、閉会 —